

出入国在留管理局が視察で訪問されました！ 「現代の国語」の授業を通して、多文化共生を学ぶ！

【令和7年9月10日】



名古屋出入国在留管理局の職員5名が東濃高校を訪問されました。訪問は昨年が続いて2回目で、外国につながる生徒が約6割を占める本校における支援の在り方の視察と、意見交換を目的としています。5時限目の3年次生「日本語Ⅲ」では、面接官役を務めていただき、進路希望別に面接練習をしていただきました。緊張した面持ちで志望理由等を述べていた生徒たちに、管理局の方より、たくさんのフィードバックをしていただき、リラックスして聞くことができました。外国人のために尽力される管理局の方の思いに応えようとする生徒の姿も印象的でした。



1年生の「現代の国語」の授業で研究授業が行われました。『ナンバーワンか、オンリーワンか』(著・稲垣栄洋)という教材を用いて、自分の考えを伝える力をつけることをねらいとしています。授業が行われたのは、日本人の生徒、外国につながる生徒が在籍しているクラスですが、授業では原則日本語を用い、必要に応じて母語や英語を使用しています。こうした授業は、受け手の存在を意識しながら思いを伝える大切な機会になっています。高等学校における日本語教育は、専門性に関わらず、人がもつ能力を尊重することが大切です。

